

第 1 回函館市基本構想審議会会議録

○ 開催日時：令和 8 年（2026 年）5 月 13 日（水） 18：30～20：33

○ 開催場所：函館市役所 8 階大会議室

○ 出席者

委員：齋藤委員，寺井委員，秋山委員，工藤委員，小林委員，櫻井委員，
佐々木委員，佐藤（ひ）委員，四戸委員，竹内委員，津熊委員，
永澤委員，田口委員（委員名簿順 [13 名]）

市側：大泉市長

[企画部] 渡邊部長，木谷室長，井本課長，西山主査，細越主任主事

.....

1 開会

2 市長あいさつ

3 委員紹介

4 会長・副会長の選出

－ 齋藤委員を会長，寺井委員を副会長として選出 －

5 会長あいさつ

6 諮問

－ 大泉市長から齋藤会長，寺井副会長へ諮問書手交 －

7 審議

(1) 次期函館市基本構想について

(齋藤会長)

委員 15 名中 13 名の出席により，本日の審議会は成立しております。

次第の「7 審議」に入ります。

「(1) 次期函館市基本構想について」，事務局から説明をお願いいたします。

(事務局 井本課長)

－ 資料 1 および参考資料 1～3 に基づき説明 －

(齋藤会長)

ありがとうございました。

事務局から資料・参考資料について説明がありましたが，結構なボリュームなので，すでに事前にご一読いただいた委員の皆様方いらっしゃると思いますけれども，今日改めてご説明を聞いていただ

いて、なるほどという部分でしたり、あるいはもうちょっとこうしたら良いんじゃないかというようなアイデアもあるかと思えます。皆様方からのご意見を伺っていきたく思いますが、事務局の方に、本日欠席されている方のご意見が届いていると伺っておりますので、まずはそちらを紹介させていただきたいと思えます。

(事務局 井本課長)

ありがとうございます。本日ご欠席の浅井委員より、事前に送付した資料をご確認いただきまして、この会議に先立ちご意見をいただきましたので、ご紹介させていただきます。

【浅井委員の意見】

「資料を拝見し、現構想の振り返りとして、特に観光分野は成果が見えます。一方で、札幌や東京圏への若年女性の市外流出の傾向、子育て分野における指標などを見ますと、今後、函館の未来を考える上では、若年女性が函館に住み続けたいと考えられるキャリアや所得を含めた選択肢の有無が鍵になると思えます。」 以上となります。

(齋藤会長)

ありがとうございました。こちらは資料1のどこかについてのご意見というよりは、全体を通して検討すべきポイントということで承ってよろしいでしょうか。

(事務局 井本課長)

はい、その通りです。

(齋藤会長)

全体を通してのご意見をお持ちの方も委員にいらっしゃるということでご紹介いただきました。

それでは、残された時間、資料1の内容について、皆様からお感じになったことや、こういうポイントが大事なんじゃないかということ、今日初回ですので、あらゆるところからと言ったら語弊がありますが、お気づきの点からご指摘いただきたいと思います。ぜひご意見いただければと思います。資料1についていかがでしょうか。

本日検討したい資料1の内容は広範ですが、基本構想をまとめていくにあたり調整が必要な部分について、皆様からご意見をいただくことが本日の趣旨になります。その前段階として、例えば未来の函館について私はこういうまちであってほしいや、そのためにはこういう構想があったら良いというような思いや願いから、資料1の内容をご検討いただいて良いと思っています。どんなことでも結構ですので、ご意見を出していただけたらと思います。

(津熊委員)

資料全体を拝見し、若者のアンケートなども含まれていましたが、やはり胸が痛かったです。若者の切実で悲痛な叫びというか、そういうものを感じました。なんとかそういう若い人たちが函館に希望や誇りを持ち、このまちで頑張りたいと思えるように、少しでも先輩の我々が知恵や力を尽くしていきたいと感じました。

読んでいて一番感じたことは、一にも二にもやはり函館に経済力をつけていくことが大事なんじゃない

ないかということです。市長に頑張ってもらって企業誘致などを始めて、それがあって初めて次のことが進んでいく。細かい希望やこういう計画があれば良いというものは私も地道な活動の中で考えはあるんですが、一番大事なのは雇用の創出や、限られた資源の中で工夫しながら経済を活性化していくことじゃないかと思っております。

(齋藤会長)

ありがとうございます。意見交換していく中で口火を切ることが一番大変なお役目でございますので、津熊委員から口火を切っていただいて良かったと思います。移住サポーターをされているので、例えば他のまちの取組などで関心を抱いているものや、活動の中でお気づきの点など何かありますか。

(津熊委員)

私は移住してきた者ですが、今回で移住サポーターが2期目に入ります。実際に函館に移住したいという方や、移住をしてこんなことに困っているという方から直に相談を受けていますが、やはり函館に来たいという方は多いです。特に若い女性や中年女性など、割と女性の意識が高いのか、都会だと息が詰まりそうな中で環境の良い自然などがある函館に自分のこれからの人生を置きたいと思われる方がいるのですが、ただ仕事がない。私はシニアなので、私が移住した後、私の親族も市内にマンションを購入して引っ越してきて、シニア層も引っ張っています。ただ、シニア層は働いて蓄えたお金で暮らす方たちですけど、函館で生活をしてそこに生活の基盤を置きたいという方の仕事がないかなかなか見つけられないということです。

あとは二拠点生活で、都会で稼いで、なかなか都会では家を買えないので函館で家を買って余暇を楽しむという方も増えています。

(齋藤会長)

ありがとうございます。それぞれ委員の皆様、専門的なお立場から考えがあると思いますので、このような感じでどしどしご意見を出していただきたいです。この検討資料はひとまず横に置いておき、まずは皆さんで感想や思い、願いたいなものを出し合ってください、本日、最終的に検討資料のこちら辺をもっと盛り込んだら良いとか、もうちょっとこの辺を書き出した方が良いとか、もっと大事なこともあるといった議論につながれば良いと思っています。いかがでしょうか。

(秋山委員)

函館市PTA連合会の秋山と申します。資料1「第3章 まちづくりの視点」のところで、ウェルビーイングの向上やシビックプライドの醸成という記載があります。資料3-2には、ウェルビーイングの客観データと主観データの指標が掲載されており、昨年、当該指標などを活用して行われたウェルビーイングのワークショップには私も参加しておりました。

その中で改めて気付かされたことがあります。函館は外部の人からはとても魅力のあるまちだと評価されている一方で、函館に住んでいる人がその魅力に気づいていないというところに行き着きました。それが主観・客観指標の数値が50%を切るか、切らないかということになってくるんですが、これを考えると、資料1の第3章の2にありますシビックプライドの醸成、先ほど説明いただいた市民がまちに愛着を持つというところにつながってくるのかなと思います。

先ほど津熊委員のお話にもあった通り、函館はとても良いところだということで、外部からはす

ごく良く見えても、実際に住んでみると不便なところがある。そこがまずは改善していかなければならない点の1つだと思います。「隣の家の芝が青く見える」になりがちですが、実は函館の芝だって青々して良いんですよということを市民の皆さんにどうやって伝えていくかというところが、大きなポイントになると思い発言させていただきました。

(齋藤会長)

ありがとうございます。資料1の第3章の2, シビックプライドの醸成というところに着目して、ここが大事だというご発言だったと思います。私には小学生の子どもがいますが、函館が大好きで、函館を誇りに思っています。妻が子どもに、「世界中から五稜郭に人が来るのに、遠足で五稜郭に行くことって実はすごいことなんだよ」と話していて。その思いが子どもに伝わっていることを嬉しく思っています。逆に「函館には何もない」みたいなことを大人が言うなよと。これもあるしあれもあるし、他の地域にないものが函館にはたくさんある。たしかに、他の地域にあつて函館にはないものもありますが、他の地域にないものが函館にはあることを、もっと我々も自覚したいと思いながら、秋山委員のお話を伺っておりました。ありがとうございました。その他、いかがでしょうか。

(工藤委員)

学生団体 ISARIBI with の工藤と申します。日頃、学生団体に函館をもっと良いまちにするということを団体のミッションとして活動しております。

まず大事だと思ったことは、少し概念的な話にはなっていますが、10年という期間とはいえ、もっと先を見越した計画にすることが大事だということです。大学で教職の授業を受けていてすごく印象に残ったことがあります。教員は未来を予測する力がないとダメだと。これから10年20年もっと先の人生、社会を生きる子どもたちを育てる人だから、未来を描けていないといけないということを知り、たしかにそう思いました。それは、まちづくりにも言えることだと思います。社会に合わせてまちづくりをするのではなく、先を見越して計画を立てていくのが大事だと思ったのですが、私はまだ知識が足りなくて難しいなとも感じています。

函館の価値を高めていくという点で、資料には「地域資源の価値化」と書かれていますが、例えばオランダに本部を置く「グリーン・デスティネーションズ」のような持続可能な観光に関する国際的な基準を定めている団体の認定をもらうため、積極的に審査を受けに行ったりすることで函館自身の価値が高まると思います。函館は観光がとても盛んですが、国際的に見てもさらに価値が高まり、外から来る人や、持続可能な観光地を目指して来る人が増えると思うので、とても大事ななと思いました。

先ほどシビックプライドの話がありました。私も外から来て、函館はすごく魅力的なまちだと感じています。学生からはその魅力がよくわからないという話をよく聞きます。そのため、若者のシビックプライドの育成が鍵になると思います。私も学校教育の中ですごくシビックプライドを育てられたという実感がありまして、だからこそ地域に関わることは面白いとか、魅力に気づきたいという思いがあり、函館でもこうやって地域の活動をしたいなと思い学生団体に活動しています。ですので、学校教育における若者のシビックプライドの育成に力を入れることが大事なんじゃないかと思いました。

(齋藤会長)

ありがとうございました。現状に照らしてではなく、未来を見据えて考えていくことが大事というご発言もありましたし、世界基準に照らして目指していくのも良いよねとか、シビックプライドを醸成していくには学校教育が大事だよねという発言もありました。ちなみに工藤委員はご出身どちらですか。

(工藤委員)

出身は喜茂別町で、高校はニセコでした。ニセコは若者のシビックプライドの育成にすごく力を入れていました。

(齋藤会長)

喜茂別町出身で、ニセコの高校に通った方が、今、函館の活性化に取り組まれているということです。今、工藤委員からも、今後の方向性みたいなものを考えていくためには、未来を見据えて考えていくべきだということで、基本構想の期間が従来10年ということで、例えば10年は長いのか短いのか、そういうご意見があったりなかったりするのかなと思います。事務局に伺いたいのですが、基本構想の期間が10年というのは何かに定められているものなのか、それとも検討の余地があるものなのでしょうか。

(事務局 井本課長)

函館市は従前より10年で策定してきましたが、何かに明確に、定めがあるものではありません。

(齋藤会長)

他のまちはどうですか。

(事務局 井本課長)

10年としている自治体は多いのですが、長めに設定している自治体もあります。

(齋藤会長)

これは悩ましいと思いますが、長ければ長い、結構時代は変化するじゃないですか。だけど、短かったら短かったでそんなに簡単に結果が出るものでもないと思うと、10年というのは1つの良い落としどころなのかなと思いながら伺っていました。皆さんどうですかね。今、工藤委員のご発言もあったものですから、10年くらいが良いのか、より長期が良いのか、短期が良いのか、何かご意見ありますか。

(津熊委員)

両方大切ではないですか。

(齋藤会長)

ということ言うと、基本構想が10年で、その下位にあたる実施計画が5年でしたよね。その辺、事務局いかがですか。そういう構図になっている理解でよろしいですか。

(事務局 井本課長)

はい。10年の基本構想と5年の実施計画で、進めております。

(齋藤会長)

基本構想が最上位の計画なので、基本構想はひとまず10年に置いておき、内容についてはもうちょっと先を見据えて、この審議会では議論をしていきたいですよねって、先ほどの工藤委員のご発言はそのような理解でよろしいですか。

(工藤委員)

はい。

(齋藤会長)

ありがとうございます。では、審議会としては一応、従来通り10年を想定した建てつけで作っていくけれど、議論の内容としてはもう少し長い目で見た時の函館市の未来像を描きながら、皆さんで議論していきましょうということで、了解していただいてよろしいでしょうか。

(各委員異議なし)

ありがとうございます。では、そういう整理をさせていただきたいと思います。少し横道に逸れましたが、それ以外の委員の皆さんにお気づきの点があったらぜひお願いいたします。

(小林委員)

私は「子育て支援ネットワーク」という会に属しており、本日は代表として出席させていただいております。当ネットワークでは、子育てを応援しようと15の団体が活動しております。先ほど少子高齢化のお話が出ましたが、私たちも一生懸命活動している一方で、メンバーの年齢が上がり、次に活動を受け継いでくれる若い世代を探している現状にあります。

資料1の第2章の3には、「人口の推移と将来推計」や「経済・産業」と記載があります。私の周りには中高生を育てている保護者が多いのですが、「中学・高校までは函館でゆっくり育てられるものの、進学先をどうするか」という悩みをよく耳にします。保護者に経済力があれば、例えば札幌の大学へ進学させられますが、子どもが市内に希望する学校がないために、仕方なく子どもを函館から出さざるを得ないという話を聞くこともあります。また、「大学卒業後や社会に出てから函館に戻ってきたいと思っても、若い人たちが喜んで働ける産業や場所があるだろうか。子どもが探しても、なかなか戻ってこられる場所がないように思う」という若いお母さんたちの話も聞きます。

私自身、短大で5年ほど学生と接する中で、「なるべく函館に残って、このまちを支えていこう」と伝えてきました。周りを見ると、函館市のほか、北斗市や七飯町など、この地域に留まって仕事をしている若者もおり、大変頼もしく思っているのですが、若者たちが生活の中で函館市の良さに気づき、このまちを理解しているかということ、「なんとなく函館にいる」という声も聞かれます。観光客で賑わう場所がある一方で、「私たちの暮らす場所ももう少し活気があったら良いのに」という若者の声も耳にします。

本日は第1回として資料をご説明いただきましたが、これから若者に函館のまちの良さに気づいてもらい、残ってもらうためにはどんな方法があるのかということ、今、工藤委員の話聞きつつ思っていたところです。

今日は1回目なのでこれぐらいしかまだお話しできないのですが、できれば函館を活気あるまちにしたいし、してほしいというのが私の希望でございます。

(齋藤会長)

ありがとうございます。したいし、してほしいと。したいというのはまさに今私たちができることという視点でございますし、してほしいというのは未来へのメッセージも含めてってことだと思います。各委員の皆さん方から話を伺うと、やはり稼げるまちというところに函館の課題があると感じながら聞かせていただきました。ありがとうございました。その他いかがでしょうか。

(田口委員)

私は公募で応募させていただいたのですが、私自身は函館出身で函館生まれですが、進学と同時に道外の大学に進学し、そのまま就職して、後から函館に戻ってきました。資料1を見て思ったのが、「第5章 実現に向けて」の基本方針の中に記載されている「帰ってきたいと思えるまち」、本当にそういう人たちが増えれば人口も増えるし、雇用も増える。だけど、函館で就職したいけど良い就職先がないというのは現実問題としてあると思いますし、帰ってきたは良いけれど、これからどうしようっていう悩みもあると思います。

私は戻ってきて子どもが今小さいのですが、生まれた子どもにもやっぱり函館が大好きであってほしいし、1回出て行っても戻ってきてほしいなと思います。

(齋藤会長)

ありがとうございます。私自身も、湯の川で育って高校も函館で、大学進学とともに外に出て、20年後に戻ってきました。どんな子どもたちにもマッチした大学を函館に作るというのはきりがないので、出て行くのは仕方ないと思います。だけど、「帰ってきたいと思えるまち」であれば、すごく大事なポイントだと思って伺っていました。

「帰ってきたいと思えるまち」は、何かに挑戦できる度量のあるまちというか、トライしてみようと思えるようなまちであるなら、外に出た人も帰ってきたいと思うのかなと。工藤委員、日頃 ISARIBI with の活動で色々なことにトライされていますが、学生には無理という雰囲気のマちなのか、それとも一生懸命応援してくれるマちなのか、函館はどういうまちですか。

(工藤委員)

函館は本当に人が良いなと思っています。私たちがトライすることを本当に応援していただけて、一緒に活動するよと言ってくれる人がたくさんいるまちだと思います。

(齋藤会長)

やはりそういうところが函館の得意分野なのかなと思ったりすると、トライを応援してくれるような、トライしてみたいと思えるようなまちというものもあるなと思います。その他いかがでしょうか。

(永澤委員)

私は、第5章の2(2)、くらしの部分についてお話しします。一見、小さなテーマに感じるかもしれませんが、改善することができれば実は大きな効果が得られる部分ではないかと思っています。

「笑顔と活気にあふれ、機能的で暮らしやすいまち」と謳っていますが、現状、函館は本当に暮らしやすいまちなのか疑問があります。その1つとして、まずは公衆衛生の部分です。今の家のほとんどはお風呂が付いていますが、まだまだお風呂のない家もたくさんあります。市内では公衆浴場がどんどん廃止になっていますが、では、家にお風呂がない方はどうすれば良いのでしょうか。例えば私が住む万代町を例に挙げると、町内にお風呂屋が1軒もありません。近隣にもありません。国道5号線沿いに銭湯は1軒もなく、すべて廃業になってしまった状況です。では、万代町からお風呂に入るためには、上新川町の銭湯に行く選択がありますが、お年寄りの方はバスに乗っていかなくてはなりません。ただ、バスは住民にとって都合の良い時間に走っているわけではありません。谷地頭の方に行くと、以前は万代町から谷地頭までバスが通っていましたが、乗る方が少なくなったということで廃止になってしまいました。そうなってくると、自宅にお風呂がない方たちはどこに行けば良いのでしょうか。「暮らしやすいまち」という部分には、いつも疑問を抱いています。函館は、公衆衛生の観点からも、交通の便からも生活していく上で大変なところがあります。

初めて外から函館に来られた方は、例えば函館駅から5号線沿いを下りたい時に、バスの本数が少なく、どこでどのようにバスを乗り換えたら良いのかわかりづらいため、以前市長と町会の関係でお話し合いが行われた際、町民の方からは東京の山手線のように、五稜郭、ガス会社、松風町、函館駅、ここをぐるぐる回るバスを作ってほしいという意見が出ておりました。その意見を実現につなげていけたら良いなという感じも受けるんですね。そうするとお年寄りにしても子どもたちにしても外に出歩く機会が増えるのではないかと。まちの活性化につながり、「帰ってきたいと思えるまち」にもつながると思います。

私の子どもは、東京に住んでいますが、函館は帰ってきたいと思えないまちと言います。なぜかというと、まず生活がしづらい、特に交通が不便だと。帰省しても、例えば駅で汽車から降り、実家に帰ってくる際にバスの時間がない、1時間に1本か2本しかないという交通形態であれば、帰ってきても住みづらいまちと感じてしまう。公共交通が不便だと、車を運転しなければならない方も増えますし、自転車を利用するお年寄りも、これからどんどん増えてくるでしょう。近年は交通ルールが改正になっていますから大変です。先ほど公衆衛生の観点からお風呂の関係をお話ししましたが、お風呂につきましても本当に行き場のないお年寄りがたくさんいるということ。元気なうちは良いのですが、いざ一人暮らしになったお年寄りが自宅で入浴する際、なかなかお風呂を洗って入浴するのは大変だから銭湯が良いとなります。その銭湯に行くのにもバス、電車、これを使わないと行けない状態ですので、最低限、人間としての尊厳を守っていくためには、「笑顔と活気にあふれ、機能的で暮らしやすいまち」のところ、ここの部分を強く要望させていただきたいと思います。

(齋藤会長)

ありがとうございます。公衆衛生と公共交通の部分についてご意見をいただきました。この中には具体的な内容を盛り込むものではないのですが、永澤委員のご指摘を踏まえて、例えば第5章の「1. 基本方針」の書きぶりが変わってくると思います。ですので、いろいろご指摘いただく発言の中には、抽象度の高いものがあって良いし、今の永澤委員のように具体的なご発言もあって良くて、その内容を目次の中に反映していく時にはどういう書きぶり、どういう表現で盛り込んだら良いかということを考えるのが、この審議会だと思います。第5章の(2)あたりの表現をもうちょっと調整できたら良いというご指摘と承りました。

本日の審議会も後半の時間帯に入ってまいりました。先ほど事務局から、資料1の説明で、第1章

は「基本構想の概要」、第2章は「本市を取り巻く状況」、第3章は「まちづくりの視点」、第4章は「目指すまちの姿」、第5章は「実現に向けて」とあり、最終的に「基本方針」「基本施策」に紐づく、目次となる部分との説明がありました。資料1の内容について、全般的・広範な感想というよりは、例えばもう少し書きぶりを調整した方が良いとか、こういう視点を盛り込んだ方が良いとか、ここはこれよりももっと大事なことがあるとか、そのようなご指摘があれば後半ぜひご意見を承りたいなと思います。いかがでしょうか。感想や、あるいは永澤委員のご指摘のようなこういう事例もあるからこの辺をちょっと表現調整した方が良いといったご指摘でもよろしいかと思えます。いかがでしょうか。

(四戸委員)

函館市地域包括支援センター連絡協議会の四戸と言います。どうぞよろしく願いいたします。私も秋山委員と同様、ウェルビーイングのワークショップに参加させていただきましたが、若い人が先ほど工藤委員からお話があったように、函館についてすごく一生懸命考えてくださっています。シビックプライドの話も出ましたけれども、すごく誇りと愛着を持っている方も多くて、齋藤会長のお話にもあったように、すごく函館を好きという若い人も多くて。私は若者がそのように函館を思っていると正直思っておらず、函館のマイナスのところばかりに目がいついたところもあったので、その点で、良い会だったなと思っていました。

資料1についてです。参加したワークショップは長めの時間で開催されたのですが、この資料1の中に、ワークショップで出た意見が数多く落とし込まれている印象を受けました。すごく考えて作られていると思います。「ひと・くらし・しごと・都市」ときちんと分けて、基本方針もわかりやすく書かれていますし、基本施策など細かいところの修正は今後必要になるかとは思いますが、資料1に関して、私はすごくよくできているなと感じました。

(齋藤会長)

ありがとうございます。現在の基本構想の将来像は「北のクロスロード」です。将来像についても審議をしながら、明確にわかりやすく、市民の皆さまに伝わり、皆さまで共有し、ともに目指していける将来像、という事務局からのご説明でした。この辺も含めて何かご感想などを伺いたいです。

(佐々木委員)

地域公共交通の協議会から参りました佐々木と言います。私もこの資料を見てウェルビーイングという指標を活用することが、市民の意見を吸い上げる際に良いと思いました。特に公共交通の面で考えた時に、資料3-2の3枚目になりますが、「移動・交通」について年代別で示されており、客観指標ではほとんどの年代が50以下です。客観的に見ても、満足度として良くないものと思っています。結果として、主観指標が客観指標を下回るというのは致し方ないのかなという感じがしています。

資料3-3の39ページには、函館のまちに対して特に不満に思うことについて、どういう年齢構成の人がどういう回答をしているのかが示されていますが、「移動・交通」については大学生等が一番不満に思っていて、これは移動範囲が広いから公共交通に不便を感じているのかなと思います。高校生も低いですが、これは移動の需要が少ないか、代替交通手段として自転車などがあるからなのかと見ています。高齢者という分類があれば見たかったのですが、20歳以上は一括りになっているので。今後、高齢者が交通弱者になっていくことを考えた時に、現在は年齢別人口の70歳から74歳が非常

に多く、10年後には80歳から84歳になりますので、こういう方々の移動手段が限られてきてしまうことから、やはり公共交通が全体の構成にはパッと出てきてはいないですが、すべてを考える上で重要な交通手段になってくると感じています。特に第5章の2(2)の⑤や⑥、こういうところにおいても公共交通が大事ですので、そういう位置づけで今後の公共交通をどうするかということは、資料上では具体的に書かれていませんが、やはりそれを念頭に書かれたほうが良いと感じました。

(齋藤会長)

ありがとうございます。地域公共交通協議会からご出席いただいていますので、特に資料1の第5章の2(2)の⑤と⑥の書きぶりを、公共交通を念頭にしたような表現にできれば、より良いものになるのではないかといいことだったと思います。

(竹内委員)

函館商工会議所の竹内と申します。私たちはやはり経済界ですので、特に関係のある部分は、基本方針の(3)「多様な仕事や働き方を選び、将来を描けるまち(しごと)」になります。これについては非常によく練られていてこの通りでよろしいと思います。エッセンスとか思いとしては、やはり若者に地域に残っていただく視点として、これまでの労働力の確保という視点ももちろん大事ですが、地域の人的資本の高度化というような視点を入れたものにしていただければと思います。例えば今の函館には造船や再エネ、地酒、水産養殖業といった将来に向けた新たな産業も芽生えつつあります。そういった将来の産業を見据えて、将来の地域ニーズ、産業ニーズにマッチした高度な人材の育成も目指していくというような視点です。

また、若い人たちが函館で、ローリスクで挑戦できる、スタートアップができるといった視点も非常に大事だと思います。例えば数年間は少ない家賃で起業できるような場所を提供するとかですね。家賃補助が絶対に良いということではなくて、ローリスクで挑戦できるような視点を加えた(3)にいただければと思っています。

(齋藤会長)

ありがとうございました。(3)について、今の竹内委員のお話から、もう少し書きぶりを調整し得るなという感じを受けました。基本構想というものは、どうしても無難なスローガンになりがちですが、今の函館の現状と問題意識を少し照らした内容に調整する余地があるなと思いながら聞かせていただきました。

(櫻井委員)

函館市内漁業協同組合長連絡協議会から推薦を受けた、南茅部漁協の櫻井と申します。今回は函館市の基本構想の策定に係る審議会ということで、基本構想ですので目指すべき姿とかそういうものが大事になってくるだろうと思っています。細かい施策については、その下の計画でやっていくということになりますので。齋藤会長から話がありましたけれど、今日に関しては資料1の各項目で、このフレームはどんなのかといった議論になると思っているのですが、基本的にかっちりとまとめられていると思います。限られた回数の会議になりますので、このフレームの中で、文言については、これから審議を重ねていく段階で、皆さんのご意見を聞きながらというところはあるのでしょうかけれども、基本的にはこの形で進めていただければ良いと思っています。

(齋藤会長)

ありがとうございます。資料1の建てつけについては、資料の内容に捉われなくて良いと事務局から説明がありましたが、今の櫻井委員や、他の委員の皆様方からもこの検討資料の建てつけについては基本的には良いと、よく練られているとご発言がありましたので、これを基本に考えていくことで良いのかなということ、改めて櫻井委員のご発言で確認させていただきました。

(佐藤 (ひ) 委員)

文化・スポーツ振興財団の佐藤と申します。よろしくお願ひいたします。文化とスポーツ関係の団体という立場でお話ししますと、地域の活性化ですとか、次代を担う子どもたちが心豊かに、健やかに成長するためにも、文化・芸術やスポーツ活動が果たす役割というものは重要なものだと考えております。現基本構想にも盛り込まれておりますけれども、次の基本構想にはどういった形で盛り込まれていくのかなと、この資料1の基本施策のところを見て思っておりました。具体的な書きぶりは次回以降の資料の中で、文章で示されると考えておりますけれども、本日の資料1の作りにつきましては、他の委員の方もおっしゃっていましたがとてもよく作られていて、この方向性で進めていくのは良いのかなと思っておりました。次回以降、例えば文章が出てきた時に話をしていく中で、ここを変えた方が良いのではないか、というような話は出てくるかもしれませんが、この資料1の方向で進んでいくことに関しては、それでよろしいのではと思っております。

少し文化・スポーツの立場からは離れますけれども、今お話をいろいろ聞いておまして、やはり、「帰ってきたいと思えるまち」というところで、私も大学生で離れてしまうのはしょうがないのかなと思っている部分もありまして、一旦はそこで出て行くけれど戻ってくるとか、戻って来たいと思うとか、そういう方が多くなっていくまちになれば、皆さんのお話をお聞きして感じておりました。次の基本構想を作っていくにあたり、「帰ってきたいと思えるまち」という視点を持って作っていくのは良いなと思っております。

(齋藤会長)

ありがとうございます。寺井副会長、いかがでしょう。全体を聞いて、あるいは総括的な内容でも良いですし、お気づきの点があったらぜひご指摘いただきたいのですがいかがでしょうか。

(寺井副会長)

皆様のいろいろな視点からご意見を聞かせていただきまして、まさにその通りだなと思って聞いておりました。たしかに私自身も全体の建てつけとしては非常にわかりやすくまとめていただいているなと思いつつも、何人かの方から細かい文言の調整はというお話も出ていたかと思うのですが、やはりキャッチフレーズなので、しょうがない部分もあるかとは思いますが、少し具体的にイメージが想像しにくい文言という部分もまだ、もちろん初回ですのでそれは仕方がないともわかっているのですが、そういった部分もあるかなと思いますので、今後の会議を通じて、より具体性を持たせた内容にだんだんと落とし込んでいけると、より良いものになるのではないかなと思っております。

(齋藤会長)

ありがとうございます。先ほどの事務局からの説明だと、今日は、資料1の目次を基に議論ということでしたが、次回以降はこの目次に紐付けられる、少し本文に近いような内容、断片的に検討した

ものをお示しいただけるようなお話を伺っていましたので、そこでまたイメージが違うとかもう少しこうした方が良いというようなことを、できるだけ皆様方のイメージと、案というか、たたき台をすり合わせながら、徐々に解像度を高くしていければ良いかなと思って伺っていました。ありがとうございました。

一回りしましたが、その他もし皆さんの方から言い忘れたとか、この点を言って帰りたいとかというものがありましたらぜひ。

(工藤委員)

先ほど文化のお話がありましたが、私、実は函館で小さい時から津軽三味線を習っていて、それが理由で函館の大学に行きたいと思って来たので、文化はまちづくりにも生きるのではないかと思います。

私は函館に来た身なので、帰ってくるとか住み続けるなどは、おそらく先の話になるのですが、資料1のどこに、若者などが函館に来てもらうような内容が入ってくるのかなと思ひまして。資料上では見えなかったので教えていただきたいです。

(齋藤会長)

今後の参考に教えていただければということで、もし事務局の方で何か答えがありましたら、お願いします。

(事務局 井本課長)

現基本構想にはなかったところですが、第2章の2、本市の現状・特性というところで、地域資源、函館の魅力などについて、具体的にお示しする予定の箇所があります。今回は目次のみで本文がないため、どうしても伝わりにくいところがあるのですが、今ご発言いただいたような件についても、次回審議会において、内容が見えるよう資料を検討したいと思います。

(工藤委員)

ありがとうございます。

(齋藤会長)

ありがとうございます。若者などが函館に来てもらうといった内容も踏まえた、包摂するようなものではあるけれども、本日の資料では文章が出ていないためイメージが湧きにくかったかなと思います。今回のご意見も含めて、次回の審議会はより解像度が高くなるかなと思います。ありがとうございました。その他いかがですか。

比較的、初回にしては意見が出た方かと思います。私は、とにかく前向きに和やかに意見が言いやすい会になってほしいし、したいなと思って本日参りましたので、皆さん気持ちよく発言いただいて良かったなと思いました。ご協力いただきまして、なんとか1回目にしては色々なご意見を出し合い、検討し合うことができたと思います。ありがとうございました。

それでは、次第の「7審議」(2)その他として、皆様方から何かご発言ありますか。

(2) その他

(秋山委員)

先ほど意見を出させていただいたのは、たまたまこの中の資料策定の関係で少し携わらせていただいたところからだったのですが、本来私がここに参加している立場からお話をさせていただいていなかったと気づいたものですから。

私、函館市PTA連合会の会長ということで、函館で、現役で子育てをしている世代の代表として参加していると思います。先ほど齋藤会長のお話にあった通り、函館を出て行くのは仕方ないだろうと。親の気持ちからすると、どうしても子どもには広い世界を見せて、もっと大きい人間になってほしいと、親はそう思っているところがあるので、子どもたちが函館を離れてしまうことは、寂しいでしょうけれども、やっぱり応援しなきゃならない部分であるのかなと思います。送り出す親が、子どもに対して、いろいろ外を見て大きくなって帰っておいで、いつでも待っているからねというような気持ちで送り出してあげているか、それとも、函館には何もないからあなたたちは外に行って頑張りなさいと言って送り出しているのか、その違いはすごく大事だと思います。「帰ってきたいと思えるまち」となると、私も大学を卒業した後、地元志向があったので函館で就職したのですが、全国転勤で3～4年は函館を離れて、結果的にまた戻って来て地元で再就職をしました。戻ってくる年齢によってはなかなか若年層が増えないですね。若年層を増やすにはやはり出生率を上げていかなければならない。そうすると冒頭に齋藤会長がお話しされた、稼げるまちであるかどうかというところになりますよね。函館で十分に子どもを産み育てられる環境があるかどうか、その部分が出生率を上げて若年層を増やして、今後函館の人口減に歯止めをかけられるかどうかにつながる大きな視点なのではないかと思いました。近隣に在住の方から、子どもは3人産まないで人口が減ってしまう。1人や2人だと人口は減る一方だと言われたことがあります。たくさん子どもを産み、安心して暮らすことができるまちになれば良いなということで、本日参加させていただいたところです。

(齋藤会長)

ありがとうございます。大変大事なご指摘だったと思います。帰ってくるタイミングが遅いと出生率の向上につながらないので、帰ってきたいタイミングが割と早いほうが出生率につながりますね。たしかにそうだなと思って聞いていました。その他いかがでしょうか。

(津熊委員)

第3章の4、「地域資源の価値化と地域経済の循環」の前半部分になるのですが、私は外から来たので、函館は西部地区など市街地の印象が強かったのですが、実際に居住してみると、南茅部や縄文の遺跡群などに奥深さを感じます。ただ、交通の便が悪いので、観光客はなかなかそこまで足は伸ばすことができませんが、私はあのあたりにすごい価値を感じます。函館の次の財産だと思っています。最近民泊を始めたのですが、シンガポールなどからの観光客にすごく人気があります。函館の良さを感じていただき、素晴らしい評価を残してくださるんですね。だから、函館の静かな環境でこれからもっともっと開けていく奥深さは財産だと思っています。雇用の創出については先ほど言いましたが、今ある資源を皆の知恵で活かしていく、若い人にはそれにワクワク感を持っていただきたいなと思っています。

8 閉会

(齋藤会長)

ありがとうございました。その他はいかがですか。後半に意見がどんどん出たので、今日は良い会議だったと思います。次回も、限られた時間で恐縮ですが、短い時間の中でも今日のように議論を尽くして、皆さんのお力で良いものを作っていきたいと思います。ぜひともご協力の方よろしく願いいたします。

それではこの他、特に皆さんから何もなければ事務局から何かございますか。

(渡邊部長)

皆さんに委員をご就任いただきまして、また、齋藤委員に会長にご就任いただきまして、ありがとうございます。たくさんのご意見が出たことを非常に嬉しく思っています。基本構想は、今まではどちらかというと行政の中だけのものになっていて、地域のものになっていなかったというのが私たちの反省としてあります。再三申し上げております通り、市民や企業などが皆で目指す、そういう函館のまちを基本構想には記したいと強い思いがありますので、よりわかりやすいものを作っていければと良いと思っています。ここ少し文章が固いなというお話もありましたけれども、柔らかい表現で、広く市民の皆さんに伝わるような内容にしていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

一点だけ、触れられてなかったのでご紹介したいと思います。「健康」に係る要素です。ウェルビーイングの指標の中で健康寿命の項目があります。参考資料3-2をご覧くださいと、「②健康状態」の主観指標は実は80ポイントです。市民の皆さんはご自身をすごく健康だと思っている。一方で、客観指標は29ポイントほどしかなくて圧倒的に低い、ということは、健康だと思いつつも早くから病気を患って亡くなるまでの期間を過ごされている方が多いということを示唆していると思います。やはりこのまちに住み続けたい、暮らし続けたい、生き続けたいと思う上では、元気で、このまちで伸び伸び楽しく過ごしたいと思うはずですので、そういう健康要素というのはとても大事かと思いつけ加えさせていただきました。本日は、稼ぐ力など具体的な言及も色々いただきました。建てつけ上、現在の基本構想の計画期間は10年で、その下に実施計画を兼ねた総合戦略があります。その戦略自体は昨年からはスタートしましたが、策定する際には地方創生のアンケート調査結果などを参考にしていますので、実は活性化総合戦略自体は企業の新たなチャレンジ、スタートアップの話ですとかどうやって稼いでいこうかということの主眼に置いていて、一人当たりの課税所得を上げていこうというような目標値を設定しています。基本構想でビジョンを掲げ、実施計画でどうやって動かしていくかという2層構造だということを少し意識の中にお持ちいただけると、次のステップでも話が進みやすくなるかと思えます。できるだけ早い段階で、皆様には資料をお示ししながら、議論が上手く進むように考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(事務局 西山主査)

— 事務連絡 —

(齋藤会長)

ありがとうございました。先ほど渡邊部長から話がありましたが、基本構想を作ったら一応終わりで行政の計画ですよということではなくて、我々含めて市民の皆さんと共有して、皆で目指していけ

るようなそういう構想にしたいということだったと思いますので、それを念頭に置きながら少しでも良いものになるように、次回も審議していきたいと思います。次回も何卒ご協力のほどよろしく願いいたします。

それでは以上をもちまして、第1回函館市基本構想審議会を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。